

春日市民図書館資料選定基準

(平成 30 年 4 月 1 日改訂)

春日市民図書館資料収集方針を受けて、図書館資料とし収集する資料の選定基準を以下のとおり定める。

1 一般図書

(1) 基本方針

- ア 市民の教養、レクリエーション、地域活動、家庭生活の向上に資するため、幅広い資料を収集する。
- イ 市民の要求に根ざした蔵書構成を考えながら、入門書から専門書にいたるまで体系的に収集する。
- ウ 制度の改廃、新しい技術、新しいテーマ、流行など、常に時代の変化に留意して選定する。
- エ 市民の参考図書として、辞典・事典・年鑑・名鑑・統計など、市民の調査研究に役立つ資料を幅広く収集する。参考図書は、原則として貸出は行わないが、必要なものについては複本を用意して貸出を行う。

(2) 部門別選定基準

[0 類 総記]

- ア 情報科学、コンピュータ関係の資料については、利用頻度の高い基本的技術者・実用書を中心に収集する。
- イ 長期にわたり、広く利用されるとと思われる主要な叢書・全集については、基本図書として体系的に収集する。

000 総記

- ・ 知識、学問一般及び情報科学については最新の情報が得られる資料を収集する。

010 図書館

- ・ 入門書、解説書を中心に基本的な資料を体系的に選定する。図書館界の最新の動向に留意する。
- ・ 近隣の図書館および関連機関が発行した資料は積極的に収集する。

030 百科事典

- ・ レファレンスに役立つものを収集する。
- ・ 百科事典は印刷媒体から電子媒体に移行しつつある。電子媒体（各種データベースや電子図書等）に留意する。

080 叢書・全集

- ・ 単行書として発行されたものと内容を比較検討しながら主要な叢書、全集を収集する。

[1 類 哲学]

ア 哲学、心理学、倫理学、宗教については、各分野の基本書を体系的に収集する。

イ 心の充足を読書に求める市民のために、人生論、一般向けに書かれたわかりやすい宗教書などに留意する。

100～110 哲学・哲学各論

- ・ 古典だけでなく現代の哲学者の著作も積極的に収集する。

120 東洋思想

- ・ 日本の思想書および中国の古典哲学書、インド思想書を中心に収集する。

130 西洋哲学

- ・ 著名な哲学各派の代表作を中心に収集する。

140 心理学

- ・ 利用が多い分野なので積極的に収集する。

150 倫理学・道徳

- ・ 人生訓は利用も多いが出版点数も多いので、よく考慮して収集する。

160～190 宗教

- ・ 主要な経典及び概説書、研究書を各宗教の体系性に留意し、時代・宗派の偏りがないように収集する。

[2 類 歴史・伝記・地理]

ア 一般向けに書かれた読み物をはじめ、入門書、解説書、研究書まで、多様なレベルのものを収集する。

イ 特定の歴史観や学説に偏らないよう、多様な観点の資料を収集する。

ウ 日本及び各国の情勢、旅行案内書等については、最新情報を提供できるように幅広く収集する。

210 日本史

- ・ 利用の多い分野なので、多様なレベル、多様な観点の資料を収集する。
- ・ 地方史はおおむね県単位で収集する。特に福岡県及び近隣県の資料は重点的に収集する。
- ・ 地方出版の資料にも留意し、必要なものを収集する。

220～270 各国史

- ・ 各国史は、各々の国をもれなく収集するように努め、特に出版量の少ない国や地域に留意する。

280 伝記

- ・ 伝記は日本人、外国人ともに幅広く収集する。
- ・ 現代人の伝記も積極的に収集する。

290 地理

- ・ 住宅地図や道路地図などの地図類は、用途に応じて各種のものを可能な限り新しい版で収集する。

- ・ 旅行案内等は、国内国外とも豊富に揃える。最新版に留意し、可能な限り新しい情報を提供するように努める。

[3類 社会科学]

- ア 時事性の高い分野なので、多様な観点に立つ資料を幅広く収集する。
- イ 社会科学は、バランスよく、できるだけ客観的な立場から書かれている資料を選ぶ。
- ウ 各分野の基本的な資料を体系的に収集する。
- エ 日常生活や実務に必要な実用書は、新しい資料を数多く収集する。
- オ 国の主要な審議会答申や報告書、統計書などの政府刊行物は積極的に収集する。
- カ 人権問題に関する資料は幅広く収集する。

300 社会科学

- ・ 主要な主題の資料は、積極的に収集する。

310 政治学

- ・ 政治思想、議会、政党等について多様な観点の資料を幅広く偏りなく収集する。

320 法律

- ・ 法律書は法改正に伴い、随時資料を更新する。
- ・ 各分野の基本書、多様な学説の資料を幅広く体系的に収集する。

330～340 経済学・財政

- ・ 入門書、実用書から、古典的な著作まで体系的に収集する。
- ・ 経済理論は古典から現代経済にいたるまで多様な学説の資料を収集する。
- ・ 経済政策、経済事情については、最新情報の提供に留意する。

350 統計

- ・ 各種統計の他に、基礎的な理論書も収集する。

360 社会学

- ・ 社会的関心に則したテーマを機敏にとらえて収集する。
- ・ 生活に密接に関わる分野なので、実用書についても幅広く収集する。
- ・ 制度の改変に配慮し、最新情報の提供に留意する。

370 教育

- ・ 家庭及び学校教育に関する実用書や専門書を収集する。
- ・ 社会教育の観点からの資料も幅広く収集する。
- ・ 学習参考書、試験問題集等は、収集の対象外とする。

380 風俗習慣・民族学

- ・ 主要な全集、講座、著名な著作集は、積極的に収集する。
- ・ 冠婚葬祭については、実用的で新しい資料を積極的に収集する。

390 国防・軍事

- ・ 時事性、話題性のある資料は、積極的に収集する。

[4類 自然科学]

ア 科学の進歩にあわせ、常に最新の情報を提供できるように、資料の更新をはかる。

イ 医療・健康法に関する資料については、内容の信憑性に十分留意して選定する。

410～440 数学・物理学・化学・天文学

- ・ 最新の学問の傾向に留意して収集する。

450 地球科学・地学・地質学

- ・ 地震や自然災害に関する分野は、市民の関心が高く利用が多いので、積極的に収集する。

460～480 生物学

- ・ 入門書、概説書を中心に体系的に収集する。
- ・ 図鑑は利用が多いので、豊富に収集する。

490 医学・薬学

- ・ 医学と医学倫理に関する分野は、一般教養的な資料から専門書にわたって収集する。
- ・ 民間療法や新しい治療法等は、客観性・科学性・信憑性等に留意する。
- ・ 医療機関と連携して、病気や薬、健康づくりに等に関する資料の更新に努める。
- ・ 医師や医学生等を対象とした高度な専門書は収集しない。

[5類 技術・工学]

ア 各分野に関する基本的理解を深め、知識を得るために必要な資料を収集する。

イ 科学技術の進歩発展に対応した資料を収集し、更新をはかる。

ウ 企業の動向・業界の情勢等、ビジネスに役立つ資料を積極的に収集する。

510 建築工学・土木工学

- ・ ゴミ問題、公害や自然保護など環境問題に関する資料は、積極的に収集する。

520 建築学

- ・ 実用的なものから専門的なものまで幅広く収集する。

530～540 機械工学・情報工学

- ・ 原子力の利用法については、様々な観点の資料を幅広く収集する。
- ・ 通信技術やコンピュータの分野の資料は、最新情報の提供に留意する。

590 家政・生活科学

- ・ 生活に役立つ多種類の実用的な資料を収集する。
- ・ 最新の情報、流行をもちり込んだものも収集する。

[6類 産業]

ア 各種産業、企業動向、情報等ビジネスに役立つ資料を収集する。

イ 実務や趣味に役立つ資料は幅広く収集する。

610 農業経済

- ・ 食糧問題など社会的関心が高いものは積極的に収集する。

620 園芸

- ・ 趣味や実用に役立つ資料を幅広く収集する。

640～650 畜産・林業

- ・ ペットの飼い方等は、特に利用が多いので、ペットの種別等に留意して収集する。

670～680 商業・運輸

- ・ 実務や実用に役立つ資料を幅広く収集する。

[7類 芸術・スポーツ]

ア 芸術、美術、スポーツ、娯楽に関する鑑賞・評論及びその制作・実技の両面について幅広く収集する。

イ 新しい分野についても積極的に収集する。

ウ ふれあい文化センターで講座等が開催されている分野については、積極的に収集する。

700 芸術

- ・ 古典から現代までの多様な資料を収集する。

710～750 彫刻・絵画・書道・版画・写真・工芸

- ・ 各分野の基本書は、体系的に収集する。
- ・ いろいろな画法、技法の資料を豊富に収集する。
- ・ 美術館等の収蔵目録、展覧会の図録などは、県内開催のものを中心に収集する。

760 音楽・舞踊

- ・ 西洋音楽に偏らず、邦楽、民族音楽等にも留意して収集する。
- ・ 楽譜（冊子体）や楽器の演奏方法に関する資料にも留意する。

770 演劇・映画

- ・ 学校や地域で上演するために役立つ資料も収集する。

780 スポーツ・体育

- ・ 新しいスポーツについても積極的に収集する。また、ルールの改変にも留意する。
- ・ スポーツ団体、学校、社会教育団体の指導や研究に役立つ資料も収集する。

790 諸芸・娯楽

- ・ 華道・茶道は、各流派の歴史、理論、作法、道具についての資料を収集する。

[8類 言語]

ア 日本語に関する知識教養、言語の学習、実用に役立つ資料を幅広く収集する。

イ 外国語習得のための初歩的な資料、日常会話集等を幅広く収集する。

810 日本語

- ・ 文法、作文、会話、方言等の資料も積極的に収集する。

820 中国語・東洋の諸言語

- ・ 日本に身近な諸言語（中国語、ハングルなど）を中心に収集する。

830 英語

- ・ 著名な作品及び学習用の資料も収集する。

840～890 その他の言語

- ・ 出版量の少ない言語についても留意して収集する。

[9類 文学]

- ア 国、時代、分野、著者等に偏りのないよう配慮し、幅広く収集する。
- イ ベストセラー等の新刊書については、利用状況に応じ複本を揃える。
- ウ ロングセラーの文学作品については、長期的に常時提供できるよう補充に努める。
- エ 古典文学及び文学史・作家論等文学研究に関する資料は、体系的に幅広く収集する。
- オ 文学作品については、以下の点に留意して収集する。
 - ・ 現代の小説、エッセイは、幅広く収集する。
 - ・ 詩歌、戯曲は、主要な作家のものを中心に収集する。
 - ・ 翻訳作品は、訳の相違に留意する。
 - ・ 古典の注釈書、解釈書は、評価の高いものを中心に幅広く収集する。また底本の相違に留意する。

[参考図書]

通読を目的とせず、主として特定の知識、情報を得るための資料を「参考図書」とし、常に市民が調査、研究ができるよう、常備資料として収集する。

- ア 改訂版に留意し、最新の情報を提供できるように留意する。
- イ 参考図書は、各分野の専門的かつ網羅的な資料を中心に収集する。
- ウ 年鑑、白書類は、継続的に収集する。
- エ 百科事典は、最新の資料を収集する。
- オ 新聞の縮刷版は可能な限り収集する。
- カ 製本、装丁が堅牢で、長期の利用に耐える図書を収集する。

[外国語図書]

- ア 市内に居住する外国人、帰国子女、語学学習者などを利用対象として、各分野にわたる外国語資料を収集する。
- イ 英語を言語とする資料を中心に収集するほか、アジア語圏の資料の収集に努める。
- ウ 日本を紹介した外国語資料を収集する。

[漫画]

- ア ストーリーが優れ一般文学書と比較しても遜色のない作品を収集する。
- イ マンガで表現することによって、主題がより理解しやすくなっているものを収集する。
- ウ 過度の暴力的描写や性的描写が露骨なものは、慎重に選定する。

2 児童図書

(1) 基本方針

- ア 子どもが読書の楽しさを発見し、豊かな経験を得ることによって、子どもの想像力をはぐくみ、感性を豊かにすることができる資料を収集する。
- イ 小学校及び中学校の教科や調べ学習に役立つ資料を収集する。
- ウ 翻訳はできる限り原作に忠実であり、かつ、子どもにとって読みやすい訳文のものを収集する。
- エ 地域の読書活動のバックアップができるよう基本的な図書については、十分な複本を用意する。

(2) 部門別選定基準

[絵本]

- ア 発想が新鮮で、独創性のあるものを収集する。
- イ しっかりしたテーマがあり、起承転結がはっきりしているものを収集する。
- ウ 子どもが、生活の中で体験した事柄を再認識できるものを収集する。
- エ 絵と文の調和がとれており、絵がいきいきとした魅力的なものを収集する。
- オ 言葉がわかりやすく、適切で、日本語として美しいものを収集する。
- カ 読み聞かせ等にも対応できることに留意する。
- キ 赤ちゃん絵本、幼児絵本、定番絵本は十分な複本を用意する。
- ク 装丁や材質等が図書館の利用に適した資料を選定する。
- ケ とび出す絵本等長期使用に耐えられないものは、原則として収集しない。
- コ 外国語図書は、各国の評価の高い絵本を中心に収集する。

[児童文学]

- ア 子どもの知的、情緒的経験を広げることのできるものを収集する。
- イ 子どもが興味を持って読み進められるものを収集する。
- ウ ストーリーが子どもにわかりやすく展開されているものを収集する。
- エ 登場人物がいきいきと描かれているものを収集する。
- オ 作品に合った文体で、対象年齢の理解力に応じて表現されているものを収集する。
- カ 文字を覚えひとり読みができるようになった子どもたちに読書の楽しさを伝えられるものを幅広く収集する。
- キ 子どもの文学としての、昔話を持つ力(面白さ、不思議さ、力強さ)等を評価し、積極的に収集する。

[ノンフィクション (0~8 類)]

- ア 子どものさまざまな疑問に答え、子どもの興味関心を広げることのできるものを収集する。
- イ 対象年齢に応じて、理解できる文章と構成で書かれたものを収集する。

- ウ 挿絵、写真、年譜、地図等の資料が整っており、できる限り専門用語の説明、索引、目次及び参考文献が紹介されているものを収集する。
- エ 正確な知識に基づき、最新の情報を盛りこんだものを収集する。
- オ 春日市の地域学習に役立つ資料を収集する。

〔紙芝居〕

- ア 画面の引き抜き効果等、紙芝居の特性を活かしているものを収集する。
- イ 絵と語りの調和がとれており、絵が遠くからでも見えるものを収集する。
- ウ 演じることにより、子どもが喜びを共有し、楽しめるものを収集する。

3 ヤングアダルト図書（ヤングアダルトの定義：中高生世代 12歳～18歳）

(1) 基本方針

- ア 児童図書から一般図書への橋渡しとなるような基本図書を幅広く収集する。
- イ ヤングアダルト（以下「YA」という。）世代の具体的要求や関心の高い分野の図書、学生生活や今後の将来を考える上で役立つ図書を収集する。
- ウ YAを対象に出版された資料については特に留意して収集する。

(2) 選定基準

- ア 児童図書のうちYAにとって読みごたえのある文学作品やノンフィクション資料を収集する。絵本も多く収集する。
- イ YAが主人公もしくはストーリーの中心になっている作品を中心に収集する。
- ウ 各分野の基本的、入門的資料を収集する。また、進路選択に役立つ資料を多く収集する。
- エ 学習参考書、問題集は原則として収集しない。

4 地域資料

(1) 基本方針

春日市、福岡県及び福岡県内の他の市町村（主に旧筑紫郡及び福岡市）に関係する事物及び人物を扱った図書を「地域資料」とし、各分野において幅広く資料を選定し、収集するように努める。

(2) 収集の範囲

ア 春日市に関する資料

- ・春日市及びその外郭団体が発行した資料。特に春日市が発行する行政資料については、網羅的に収集する。
- ・春日市内の学校や企業が発行した資料
- ・春日市に在住する個人及び所在する団体の著作又は発行したもののうち必要な資料
- ・内容の大部分が春日市に関係する資料

- ・春日市の小中学校で採用された教科書
- ・春日市で発掘された遺跡に関する資料
- イ 春日市を除く福岡県に関する資料
 - ・福岡県及びその外郭団体が発行した資料
 - ・内容の大部分が福岡県全般に関係する資料のうち必要なもの
 - ・福岡県内の市町村及びその外郭団体が発行した資料のうち必要なもの
 - ・内容のすべて又は大部分が福岡県内の市町村に関係する資料のうち必要なもの。
- ウ 奴国や弥生時代の文化についての研究や学習のために必要と思われる資料

(3) 資料の形態

以下の資料について、特に春日市に関連するものは網羅的に収集する。

- ア 図書
- イ 逐次刊行物
- ウ 古文書
- エ 地図
- オ パンフレット、リーフレット
- カ 逐次刊行物で合冊されていないもの、記事
- キ 視聴覚資料

5 逐次刊行物（新聞、雑誌 他）

【新聞】

- (1) 国内発行の主要全国紙を中心に、体系的に収集する。
- (2) 児童向けの新聞や業界紙は、代表的なものを必要に応じて収集する。
- (3) 政党の機関紙は、特定の政党に偏らないように配慮して収集する。
- (4) 外国語の新聞は、英語を中心に、必要に応じて収集する。

【雑誌】

- (1) 各分野の基本的な雑誌を、社会の動向や地域性を考慮した上で、特定の主題に偏らずに幅広く収集する。
- (2) 児童向けの雑誌は、代表的なものを幅広く収集する。
- (3) 専門的な内容の雑誌は、必要に応じて収集する。
- (4) 外国語の雑誌は、英語を中心に、必要に応じて収集する。

6 視聴覚資料

- (1) 基本方針
 - ア 収集する媒体（メディア）は、当面はCD・DVDとする。
 - イ 音楽史、映画史などで重要であると評価されている資料及び作品として評価が高い資料

を中心に収集する。

ウ 収集にあたっては、教養、娯楽、学習など多様な利用目的に対応できるよう幅広い分野から収集する。

(2) 部門別選定基準

[CD]

- ア 日本の古典芸能は民謡、及び世界の民族音楽は、系統的な選定に配慮する。
- イ クラシック音楽は、基礎的な作品を幅広く選定する。
- ウ 器楽や声楽の練習において参考となる楽曲は、代表的なものを幅広く選定する。
- エ ポピュラー音楽は、利用者のニーズに配慮して選定する。
- オ 音響・効果音資料は、福祉及び教育活動の参考となるものを優先して選定する。
- カ 朗読資料は、原作に対して忠実に朗読されたものを選定する。

[DVD]

- ア 国内外の古典や名作、アカデミー賞など各国の映画祭で受賞した作品や評価の定まったものを中心に選定する。
- イ 歴史映像資料、文化、生活映像資料は、記録的価値の高いものを中心に選定する。
- ウ 教養・実用向けの資料は、映像による効果の高いものを中心に日常生活に役立つものを選定する。
- エ 子ども向けのアニメ作品については、教育的価値や話題性を考慮しながら選定する。

7 障害者サービス用資料（大型活字本、録音CD 他）

(1) 基本方針

- ア 活字による読書が困難な方に対して、利用できる形で提供する。
- イ 当面は、大型活字本、録音CDを中心に収集する。

(2) 部門別選定基準

- ア 大型活字本は、小説及び実用書を中心に収集する。
- イ 録音CDは、落語や原作に対し忠実に朗読されたものを選定する。
- ウ 点字絵本、布絵本も収集する。